共生のひろば　3号, 93－95, 2008年3月

# 武庫川水系に生息するカジカ

法西 浩
（川がきクラブ）

## はじめに

もう７年近く前になるが、筆者は武庫川ネットワーク（自然愛好家の集り）のある会合で、博識ある自然観察担当のインストラクターから、武庫川水系の淡水魚の話しを聞いた。たいへん興味深い話しだった。講演が終るや、１枚の淡水魚の分布図を返してほしい、といわれた。ビックリ仰天だった。自分で調査するしかない、と思った。その頃筆者は武庫川流域で生物の調査をしていた。昆虫類のチョウ目とトンボ目が主であったが、ちょうど３年前から川に入り、川床を歩き、下流から上流へと魚を追った。そして07年の春やっとカジカに到達した。

写真１　カジカ生息地　三田市乙原黒川渓谷　2007.5.4

カジカ *Cottus pollux*（カジカ科カジカ属）には、川と海を回遊し中・下流域に生息する小卵および中卵型と、河川の中・上流域で一生を過す大卵型の３型が存在する。日本固有種で、肉食性、体色は淡褐色から暗褐色まで変異に富み、体側には４～５個の暗色の斑紋がある。筆者が調査しているのは大卵型種で、全長は15cm。しかし、武庫川水系で観察したのはすべて10cm以下だった。カジカは改訂・兵庫県版レッドデータブック（2003）では、回遊型はＡランク河川型はＢランクで、河川型は神戸・阪神地域には分布していないことになっている。つまり、武庫川ではこれまで生息が認められていない、ということである。

## 調査方法

ウエットスーツを着け、２本の魚網、魚を入れる布袋を持って川床を下流から上流に向って歩く。捕獲した魚、水生昆虫すべて川岸の水槽に入れ、エアーポンプで空気を送る。休憩の度に採集個体を記録した。記録は種類数、種ごとの個体数、計測（全長mm）、撮影などである。記録が終ればすべて放流する。

## 観察記録

＜データ＞個体数、計測値（全長）、観察地名、年．月．日、の順に記載。さらに、観察地（下記の番号）を武庫川水系図にプロットした。

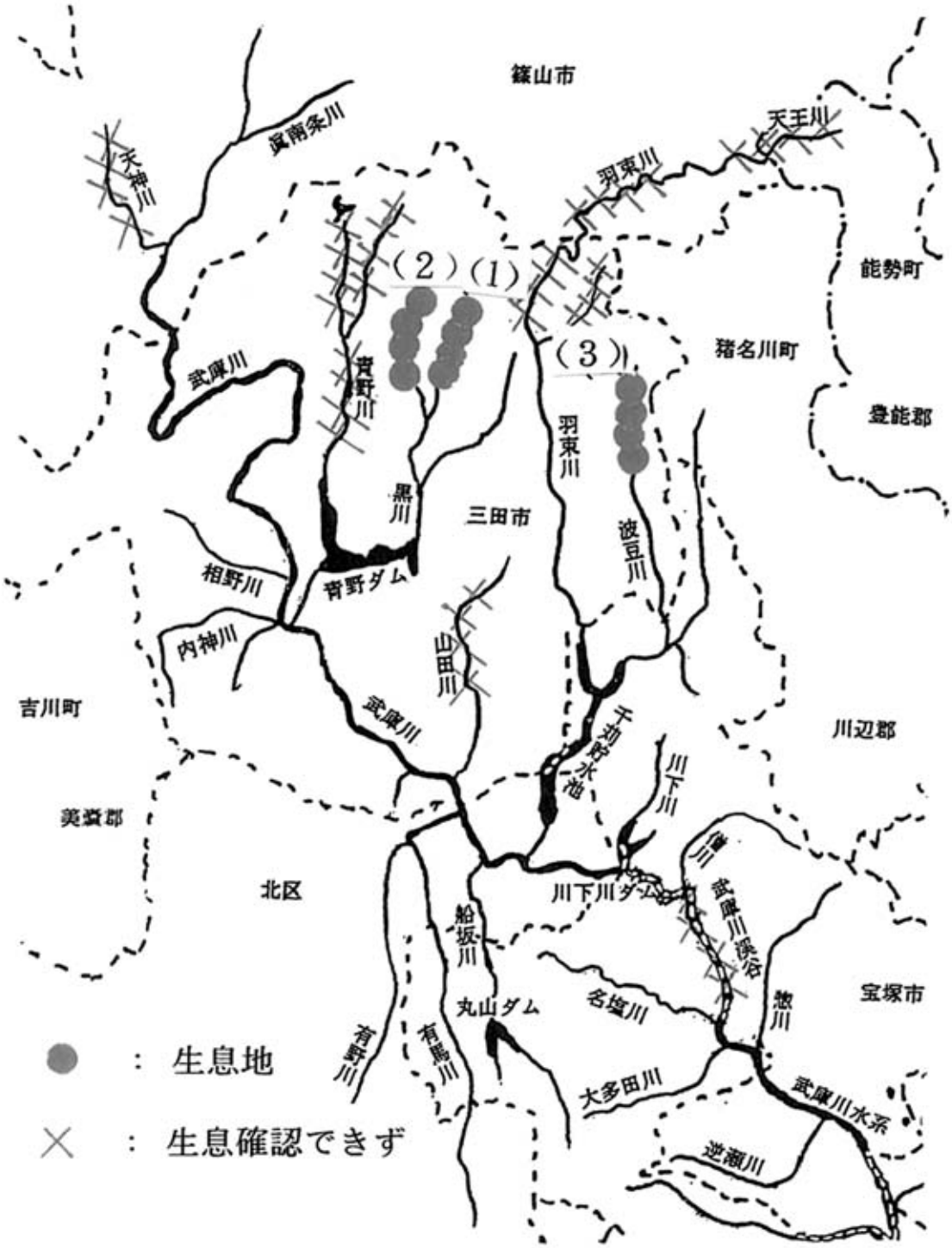


図１　武庫川水系におけるカジカの分布
(1) 三田市黒川渓谷　(2) 三田市黒川支流　(3) 三田市波豆川上流

（１）６個体（うち１頭は幼魚）三田市乙原黒川渓谷（写真１）2007. 5. 4→図の(1)
（２）４個体（写真２・３）65～120mm　三田市乙原口黒川支流　2007. 5. 27→図の(2)
（３）８個体（うち成魚２頭　80・52mm　幼魚６（写真４・５）４頭33・30・29・26mm）
　　三田市波豆川上流　2007. 7. 8→図の(3)
＃なお、調査によって確認できなかった水系に図中×印を記入した。

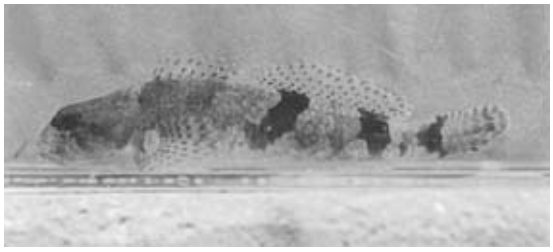

写真２ カジカ成魚 三田市黒川支流 2007.5.27

写真３ カジカ成魚 三田市黒川支流 2007.5.27

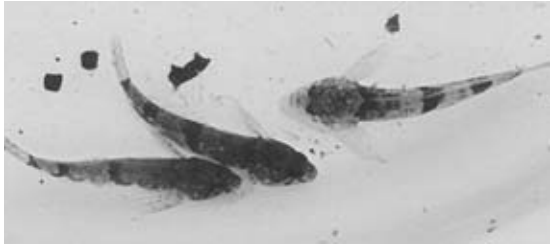

写真４ カジカ幼魚 三田市波豆川上流 2007.7.8

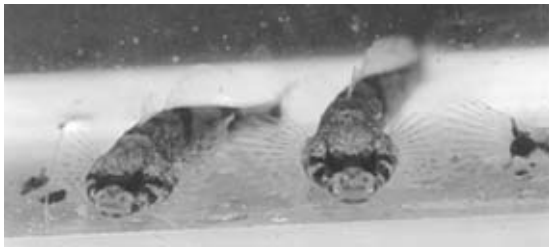

写真５ カジカ幼魚 三田市波豆川上流 2007.7.8

## 結果と展望

カジカの生息地は、調査を始めた当時は、流量の多い、流路が長い、渓谷のある青野川と羽束川水系だろうと考えていた。しかし、07年５月４日初めてカジカを三田市乙原黒川渓谷で採集したとき、こんな細流なのかと思った。その後短期間で、次つぎと２生息地（データ欄）がみつかった。いずれの産地も上流域の細流である。ということで、カジカの生息の環境論は、とても考察できそうにないと痛感した。写真１でみるような環境は、どの水系の渓谷にも当てはまる。また、調査したどの水系でも、カジカに似たドンコ（主として中・下流域に生息）がみられた。しかも、ドンコは源頭付近の細流でもみられ、カジカの生息環境はどうか、と問われてもとても答えることができない。もう一つ気がかりなことがある。武庫川水系のカジカの生息地はたったの３箇所だろうか。もっとありそうである。今後の調査に期待したい。

なお、魚の同定でいろいろご指導いただいている魚類の専門家の田中哲夫先生に紙面をお借りして感謝申し上げる。

## 参考文献

１）川那部浩哉ほか編・監修(2005)山渓カラー名鑑改訂版日本の淡水魚、山と渓谷社発行
２）兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課編集(2003)改訂・兵庫の貴重な自然－兵庫県版レッドデータブック2003－、㈶ひょうご環境創造協会発行